

## 学位審査結果報告書

学位申請者氏名 伊藤 香恋

学位論文題目 研修歯科医が困難を乗り越える心理社会的プロセス

The Psychosocial Process That Trainee Dentists Overcome Difficulties

審査委員（主査） 角舘 直樹



（副査） 村岡 宏祐



（副査） 冨永 和宏



### 学位審査結果の要旨

歯科医師は従来からストレスの多い対人医療専門職の一つとされ、これまでに職業性ストレスとバーンアウトに関する研究について報告されてきた。社会人としてのスタートである研修歯科医も同様に、日々直面する困難にうまく対処しながら臨床研修に専念することが必要である。しかし、研修歯科医が臨床研修中の困難をどのようにして乗り越えているのかについてはこれまでに明らかにされていない。近年、心理的にネガティブな状態に陥った時に自己を立て直す能力としてレジリエンスという概念が注目されており、Masten らによると「困難で脅威的な状況にもかかわらず、うまく適応する過程、能力、結果」と定義される。そこで申請者の伊藤氏は、研修歯科医のレジリエンスに着目し、臨床研修中の困難を乗り越えるプロセスを明らかにすることを目的として質的研究を行った。

本研究の対象者は一大学附属病院の研修歯科医9名であり、伊藤氏は対象者に対して「臨床研修中の困難」について12項目から構成されるインタビューガイドを用いて半構造化インタビューを行った。一人あたりのインタビュー時間の平均値は57±7.5分であった。インタビューの内容は録音され、その後逐語録が作成された。分析については質的研究手法の一つである修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて実施した。

分析の結果、36の概念が生成され、その概念から「①困難に直面」「②他者との関わり」「③内面的な強み」「④主体的実行」「⑤前向きな発想への転換」の5つのカテゴリーおよび12のサブカテゴリーが生成された。それらのカテゴリーに基づいて作成された「困難を乗り越えるプロセスの結果図」から、研修歯科医の感情がネガティブな発想からポジティブな発想へと変化した過程には、「他者との関わり」、「内面的な強み」および「主体的実行」の3要素が関与していることが示された。研修歯科医は困難に立ち向かう中で、上級医、同僚あるいは患者などの他者との関わりに支えられながら、自己の内面的な強みを発揮し、主体的に解決策を実行することで臨床研修中における困難を乗り越えていることが示唆された。

公開審査において、申請者の伊藤氏に対して主査及び2名の副査により研究デザイン、分析方法、および研究の意義等について質疑応答を行った結果、概ね適切な回答が得られた。以上のことから、審査委員会では本論文を学位論文として価値あるものと判断した。